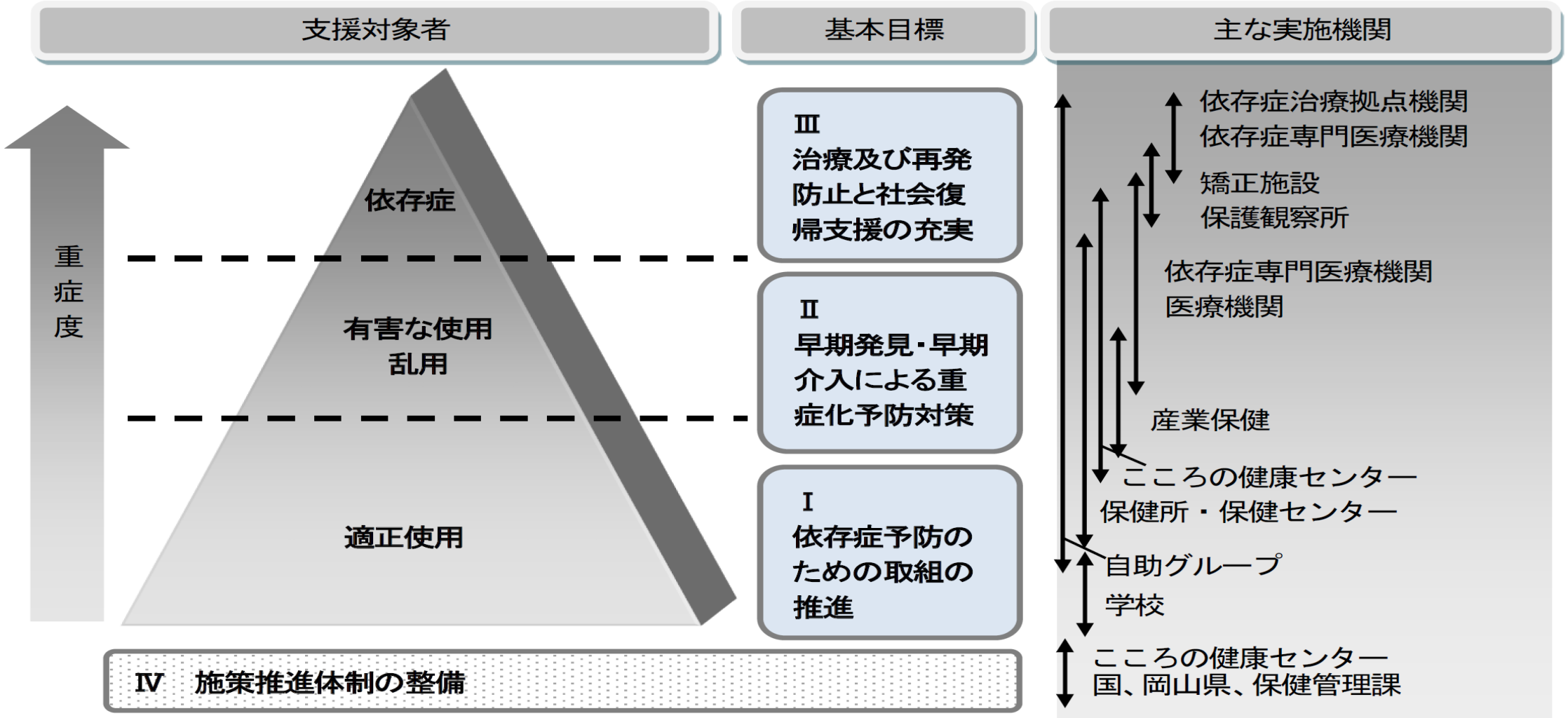
岡山市における依存症対策関連事業

事業体系

岡山市における依存症対策のイメージ



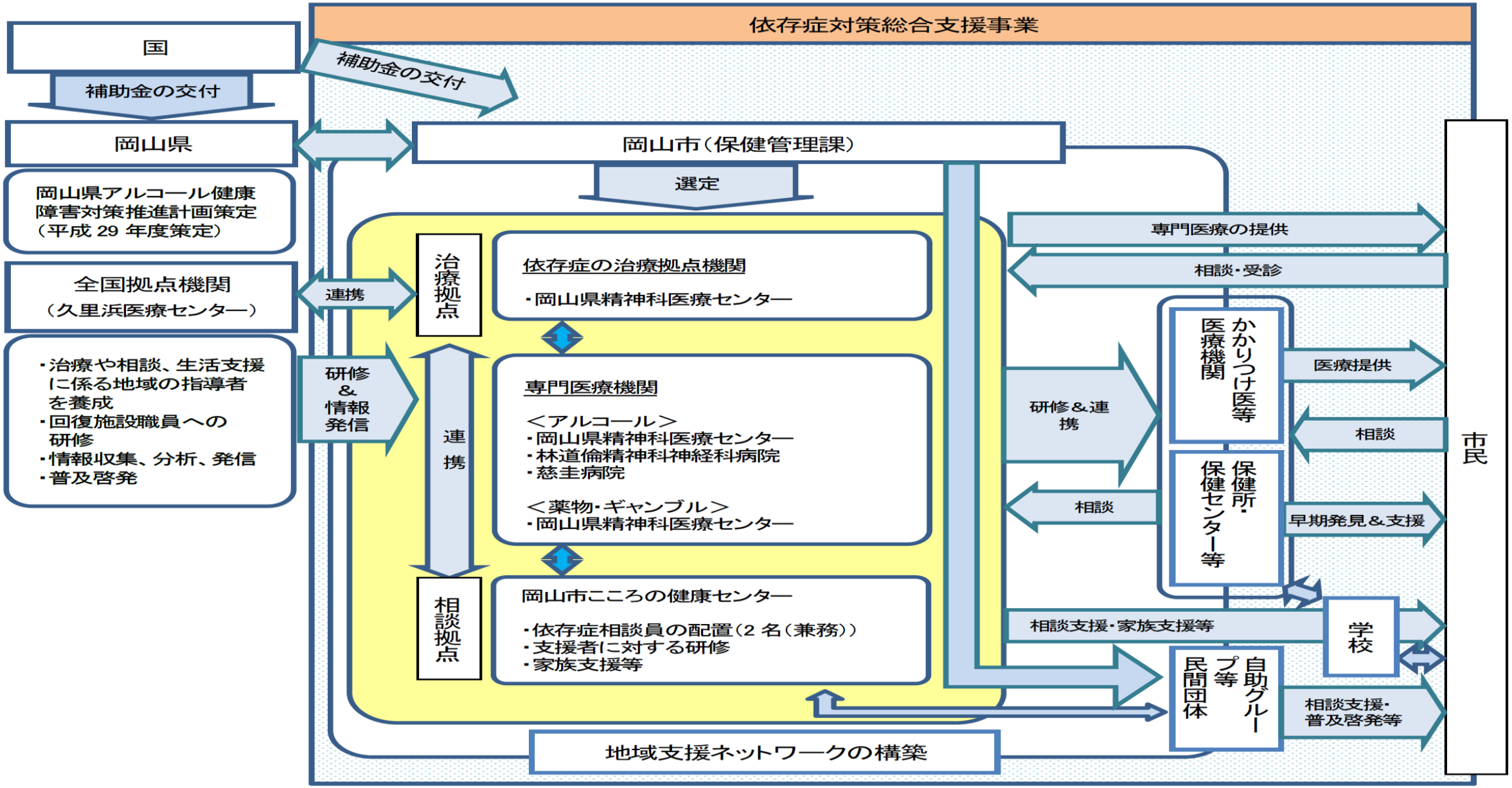
出典：厚生労働省「みんなのメンタルヘルス」より改変

事業体系

岡山市における事業

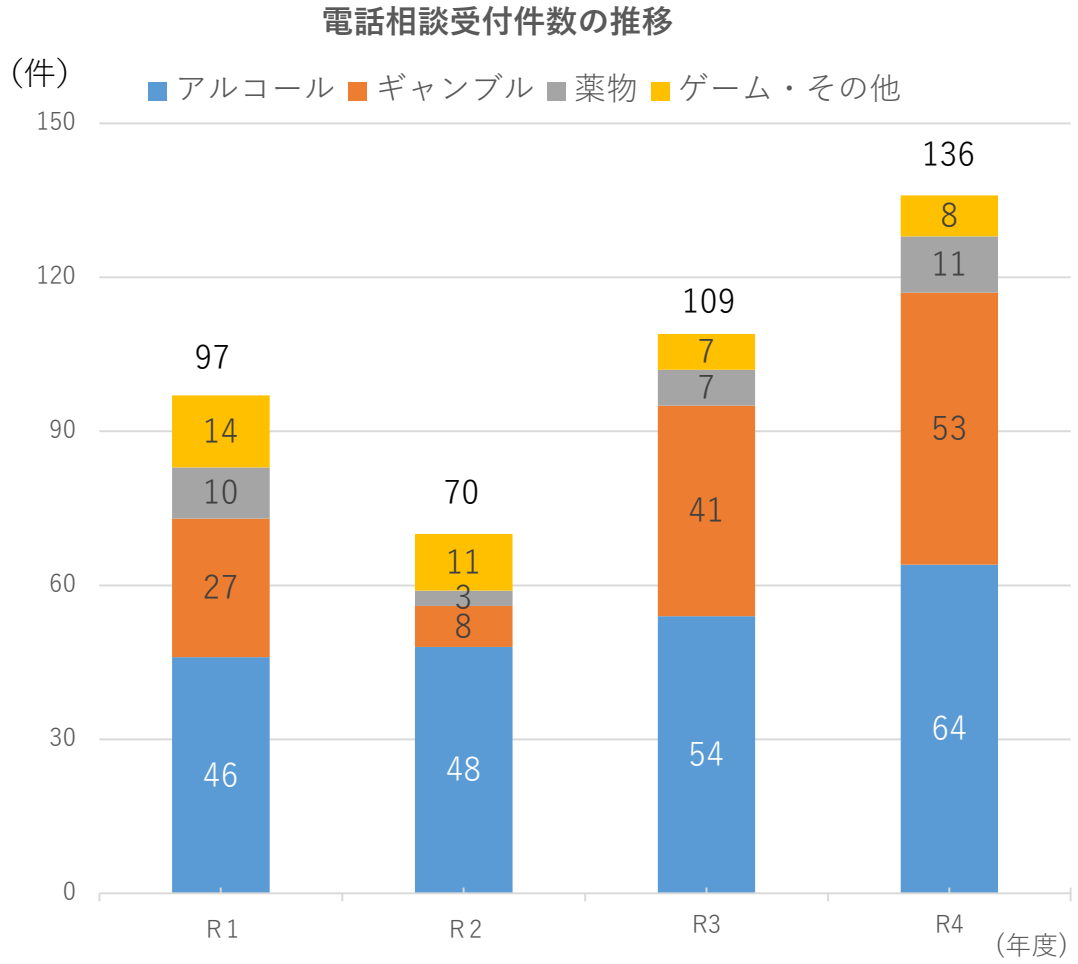
H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５
		岡山市依存・嗜癖関連問題審議会												
岡山市こころの健康センターにおける依存症専門相談														
岡山市保健所・保健センターにおける依存症相談														
		岡山アルコール依存症早期ネットワーク												
													(P26参照)	DPD
			事例に学び事例でつながるアルコール専門研修											
		一般医療機関アルコール専門研修												
		アルコール依存症支援者専門研修												
					薬物依存症基礎研修									
											ギャンブル依存症基礎研修			
	おいしくお酒を飲むための教室													
普及啓発・情報提供														
										ギャンブル依存回復支援プログラム				
													(P38参照)	VBP

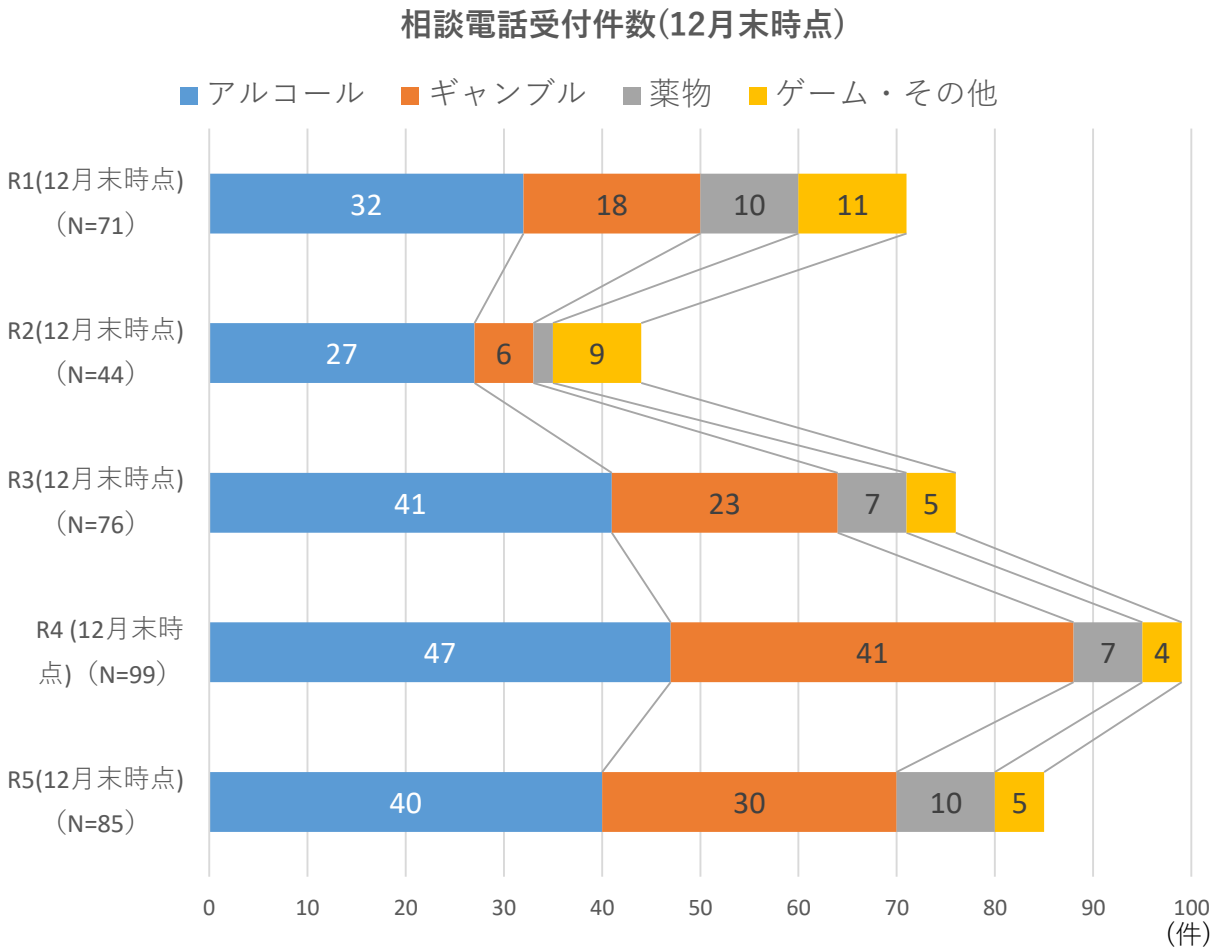
岡山市における依存症対策の全体像



相談電話受付件数の経年比較

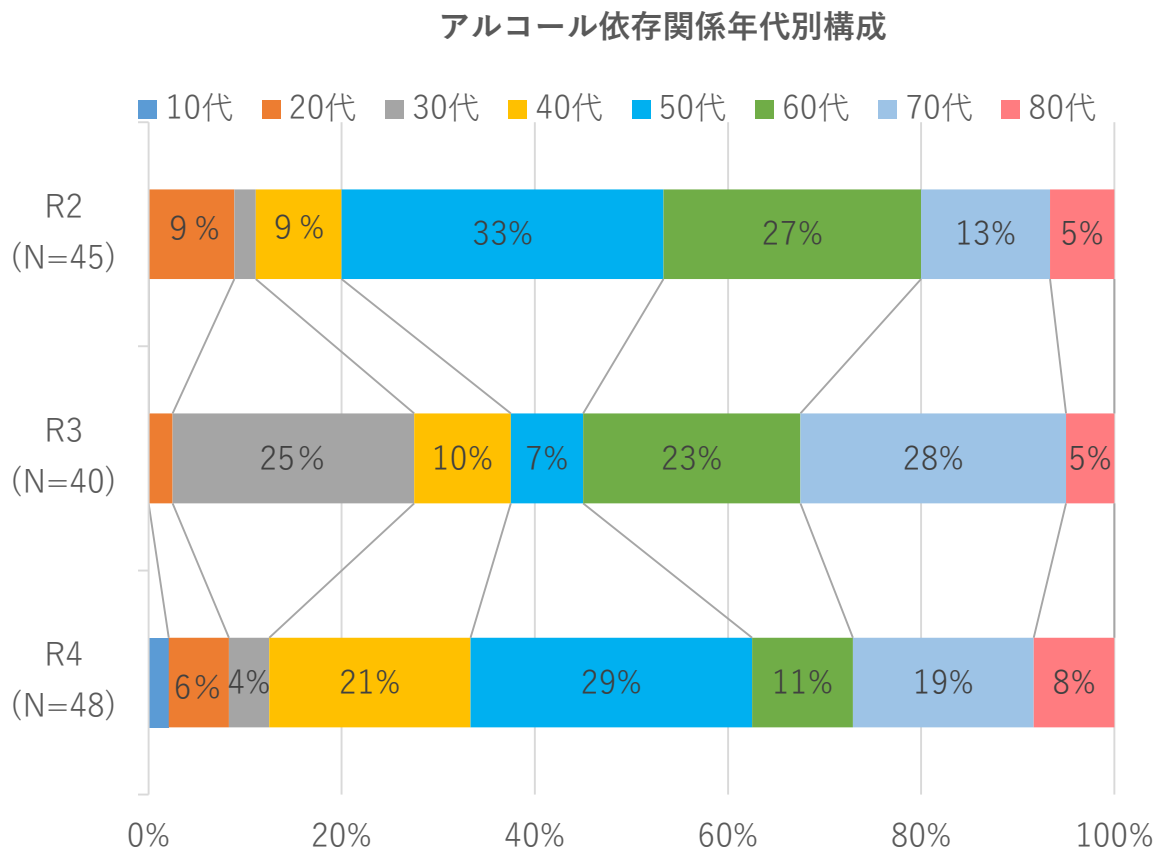
・R2年度を除いて相談件数は増加しており、対前年度比ではR3年度は1.56倍、R4年度は1.28倍増だった。全ての種別において相談件数は増加傾向。
・12月末時点の比較では、R5年はR3年の相談件数と同水準。ギャンブルの相談はR4年に急増したが、R5年はR3年並みに戻っている。
・主訴が医療機関の問い合わせに関するものでも、他機関の紹介だけに留まらず、個別相談へつながるように案内することを周知している。

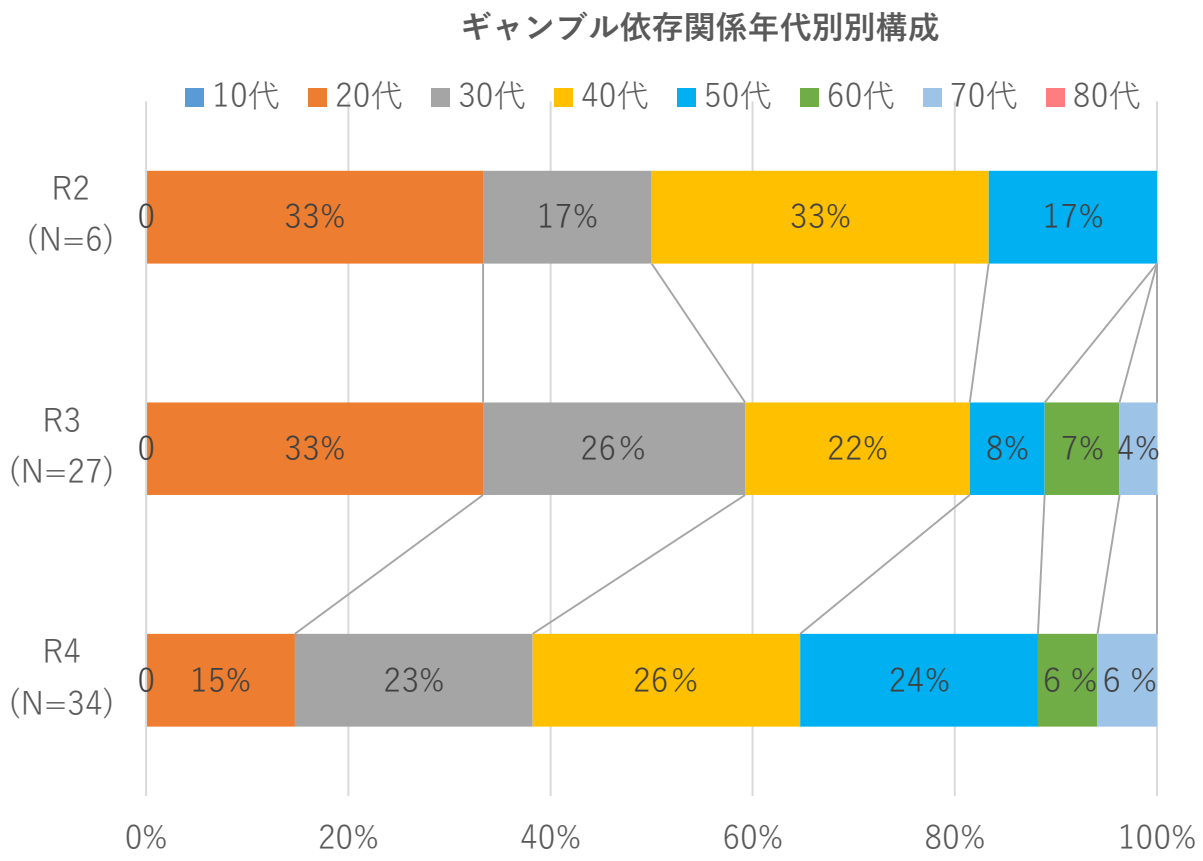




相談電話　相談対象者年齢別経年比較

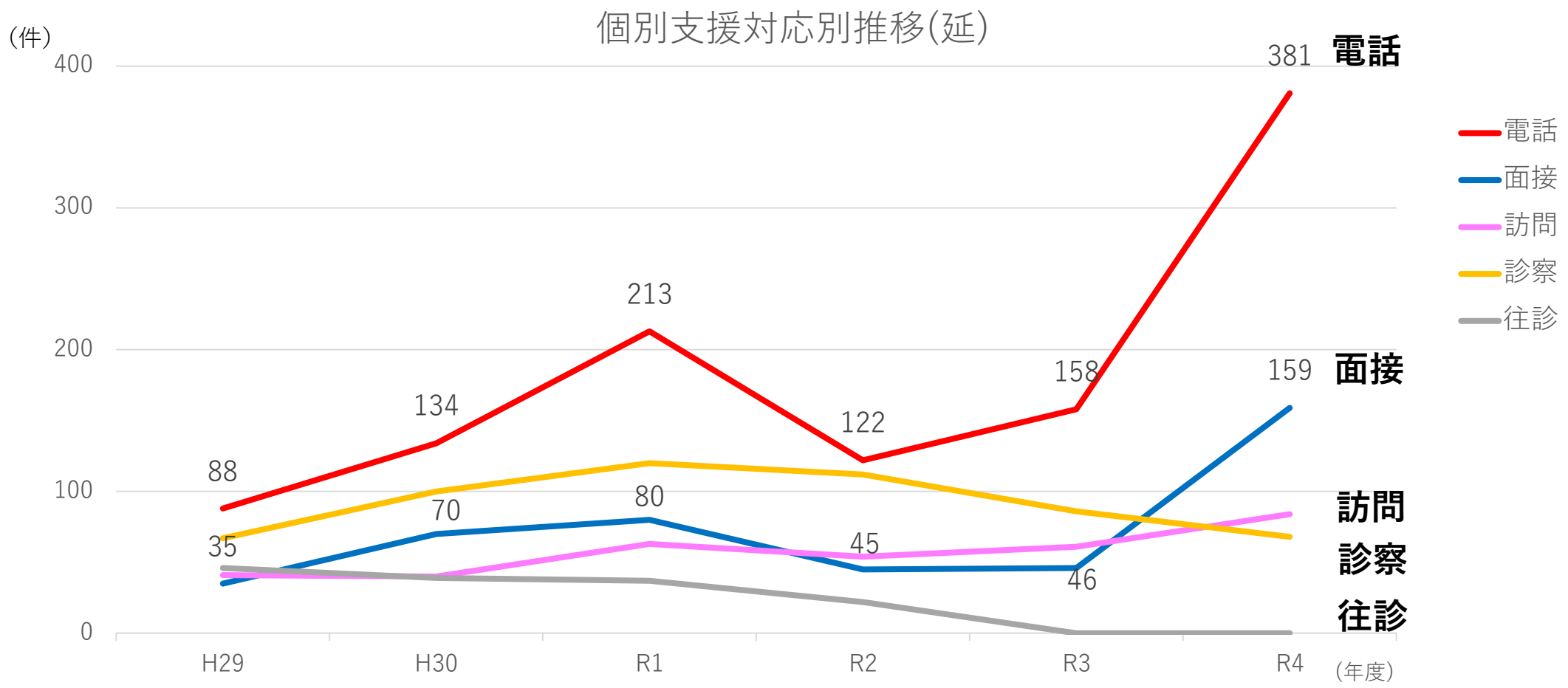
・アルコール：年度によって年齢層にばらつきがあり、一定の傾向があるとは言えない。60代以上が4割近くを占め、地域の相談も高齢者相談が多いことが想定されるため、支援者専門研修は高齢者支援機関に積極的に働きかけている。
・ギャンブル：R2~3年度は20代の相談が比較的多かったが、R4年度は20代～50代がほぼ同割合。就労中の対象者が多いため、勤務に応じて面談時間帯を工夫する他、延期の電話を受けた際は相談期間を空けず予約調整を行う、予約日前に連絡を入れる等により、支援が途切れないよう工夫している。





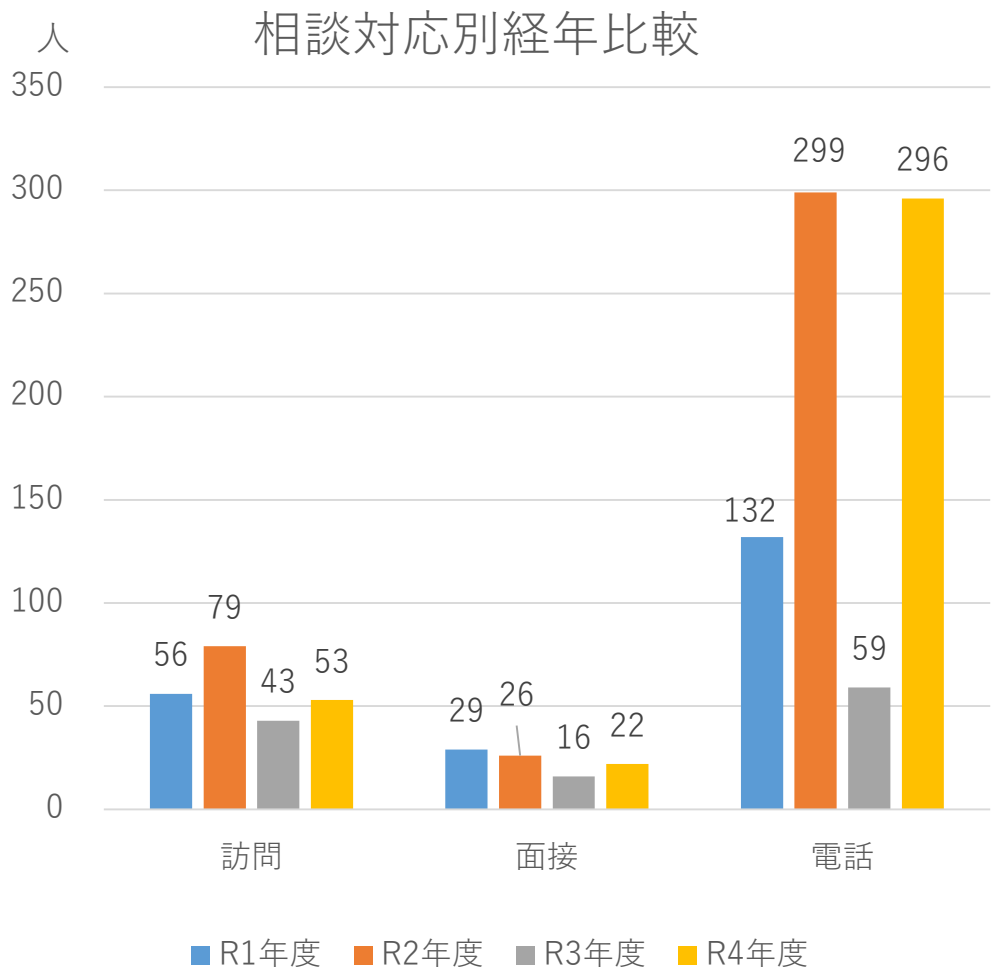
個別支援対応状況

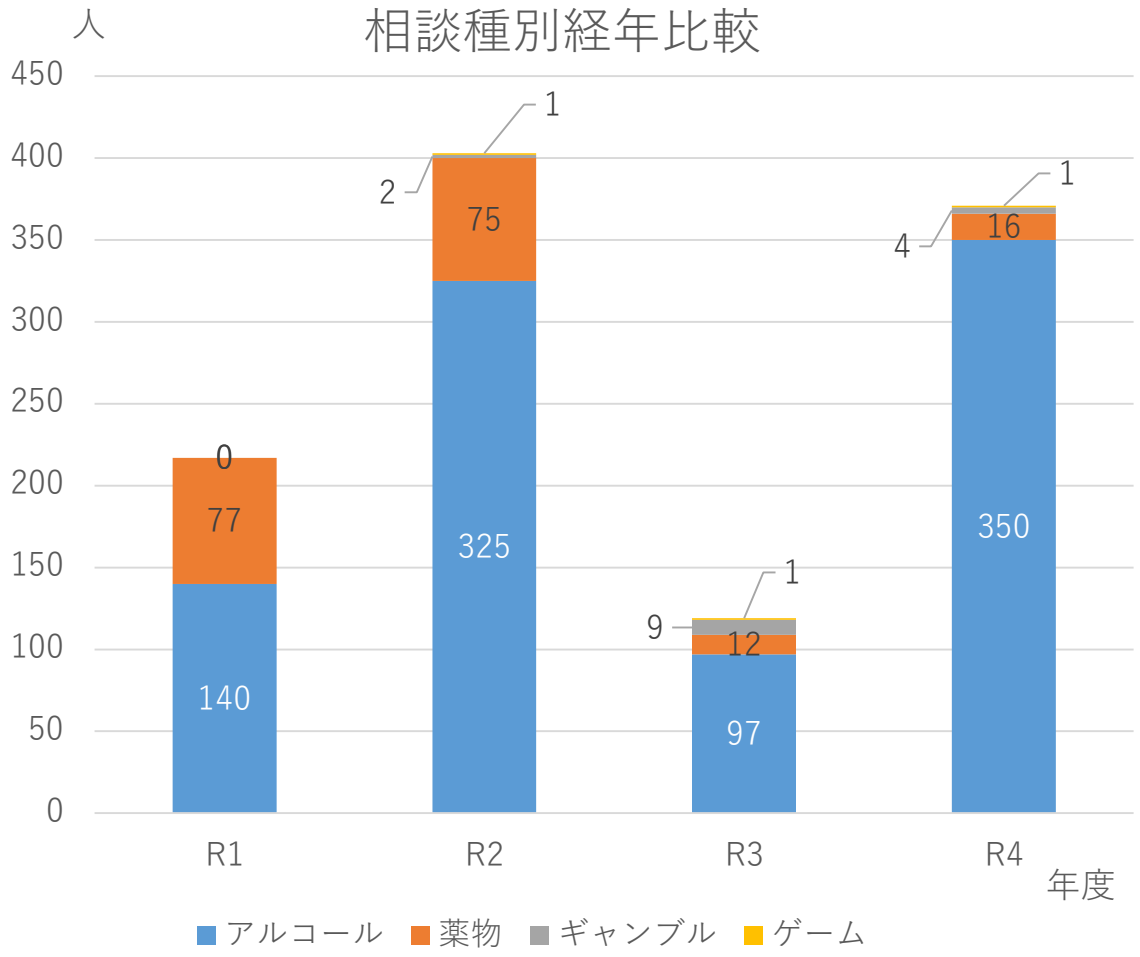
・相談電話受付件数の増加と、相談が中断しがちなケースへの丁寧なフォローアップをこころがけ、電話と面接件数は大幅に増加。年々増加する相談にもタイムリーかつ丁寧な対応が求められるため、業務の調整や人材育成が必要と考える。



岡山市保健所における相談支援

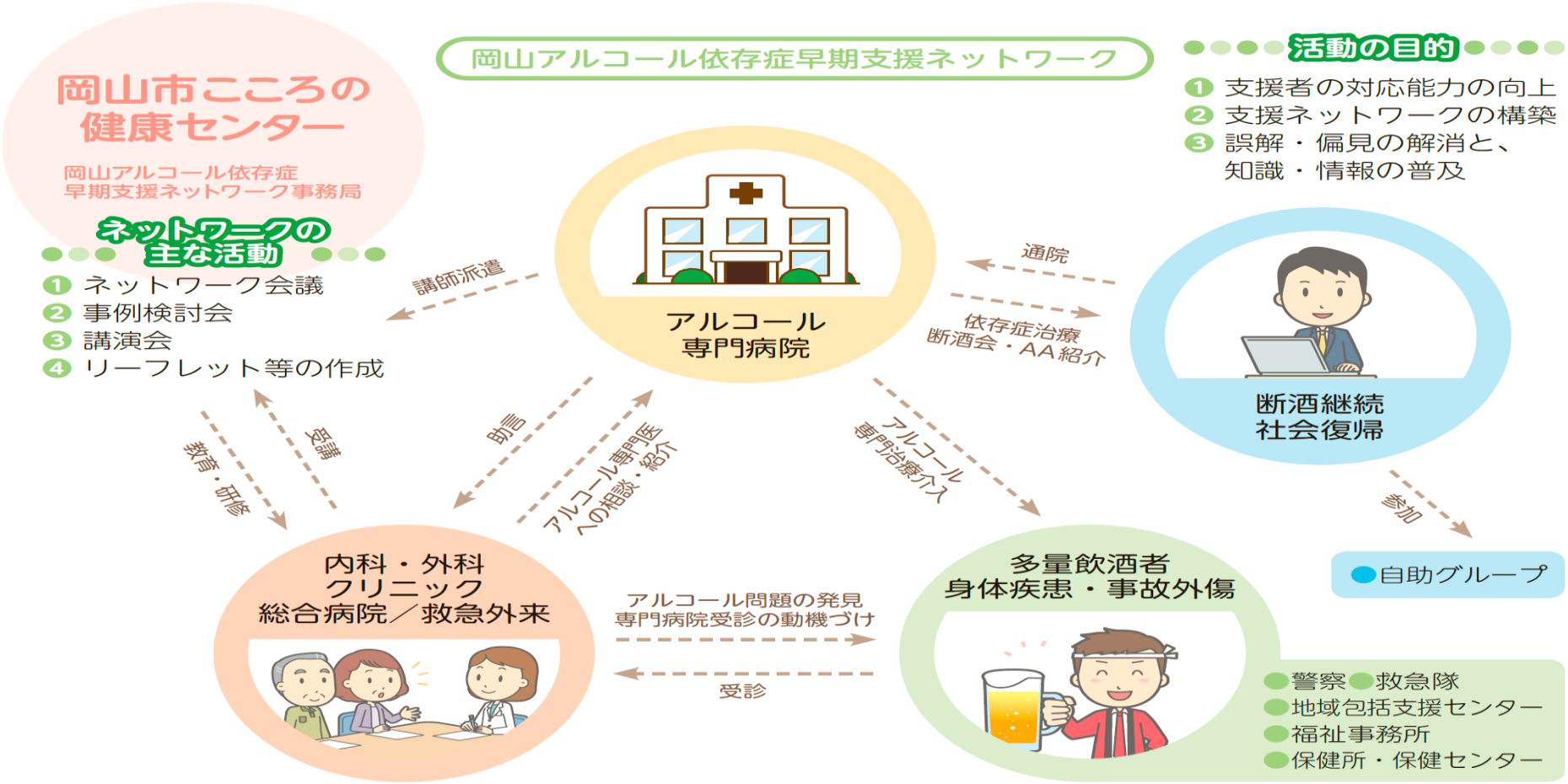
・相談総数は、R3年度は減少していたが、R4年度はR2年度とほぼ同数となっている。相談種別では、アルコールに関する相談が9割で、次いで薬物に関する相談となっている。
・相談時に適切に対応できるよう、引き続き研修等により対応力の向上に努める必要がある。





岡山アルコール依存症早期支援ネットワーク

・R５年度のネットワーク会議は、オンラインで年3回実施予定。
・オンラインにより、出席率の向上、とりわけ内科医など身体科の医師の参加割合が増加。
・コアメンバーは精神科医が増加したが、診療所・クリニックの内科医が少ない。ICTツール(メディカルケアステーション等)の活用についても検討し、引き続き関心を持ってもらうような取り組みが必要である。



イラスト：岡山アルコール依存症早期支援ネットワークの活動報告(平成29年度~令和元年度)

地域医療連携の推進（遠隔の専門医 to 患者 with 主治医）

・R2～R4年に岡山アルコール依存症早期支援ネットワークの活動から試行的にDPDを実施した4例すべてが、専門医療機関受診につながった(DPDを勧めた患者の約半数が希望)。R3年度に新設された「遠隔連携診療料」は、アルコール依存症患者を該当としないため専門医療機関側の初回医療相談が無報酬となっていた。
・R5年度はオンライン診療専門医派遣事業（精神科）として、市独自に予算化。R6年1月末のDPD実績は、クリニックかかりつけ医からの依頼による1件。

事例紹介

70代男性：非代償性肝硬変（実際の事例をもとに架空化をさせています）

数年前から断酒を指導していますが、飲酒がやめられないＡ氏。専門医の受診を勧めても受け入れてくれません。かかりつけ医は岡山市こころの健康センターに相談し、Ａ氏と家族に専門医によるオンライン派遣を提案することにしました。Ａ氏は専門医への受診には抵抗を感じつつ、「ビデオ通話なら」と提案を受け入れてくれました。

約１か月後、事前の日程調整と接続確認を行ったうえで、かかりつけ医による診察場面に専門医がビデオ通話で登場しました。専門医はＡ氏と家族、かかりつけ医と相互にやりとりし、その場で専門医の予約の調整を行いました。

専門医には家族のみ受診が続きました。しばらくするとＡ氏より「専門医にて腹水治療が可能か？」と家族を通じて問い合わせがありました。専門医のオンライン派遣から約３か月後、Ａ氏が専門医を初診しました。

出典：オンライン専門医派遣事業チラシ

地域医療連携の推進 (SBIRT)

R4年度に、ネットワークコアメンバーを中心にSBI (S:飲酒スクリーニング、BI:短時間介入)に焦点を当てた動画を作成。R5年度は、一般医療機関アルコール専門研修にて動画の解説を行い、参加者から「実際の診療の参考になる」等の意見が得られ、SBIRTの理解を深めることに役立った。今後は再生時間をコンパクトにする等、内科・かかりつけ医が診療場面で活用できるものにしていく。

動画 1　2回目診察 (本人、内科医師)

解説 1

- 初診時に肝炎ウイルスマーカーを含む血液検査および腹部超音波を実施し、次回予約
- 2回目診察でまず検査結果をフィードバック
- 続いてAUDITでスクリーニングを実施し、その場で結果をフィードバック
- BIにUltra-BIパンフレットを活用し、診察時間の短縮を目指す

動画 2　外来待合 (本人、看護師)

解説 2

- 看護師がUltra-BIパンフレットを活用しBIを実施
- 短時間ではあるが、本人の希望を丁寧に聴き、それを基に本人と今後の目標を立てる
- 飲酒記録のためのツールとして飲酒日記を提供する

動画 3　3回目診察(本人、妻、内科医師)

解説 3

- 飲酒日記の結果をフィードバック、本人にBIの効果を実感してもらう
- 場合によっては内科・かかりつけ医が専門医療機関紹介パンフレットを用いて専門医療機関を紹介する

岡山アルコール依存症早期支援ネットワークにおける各種研修

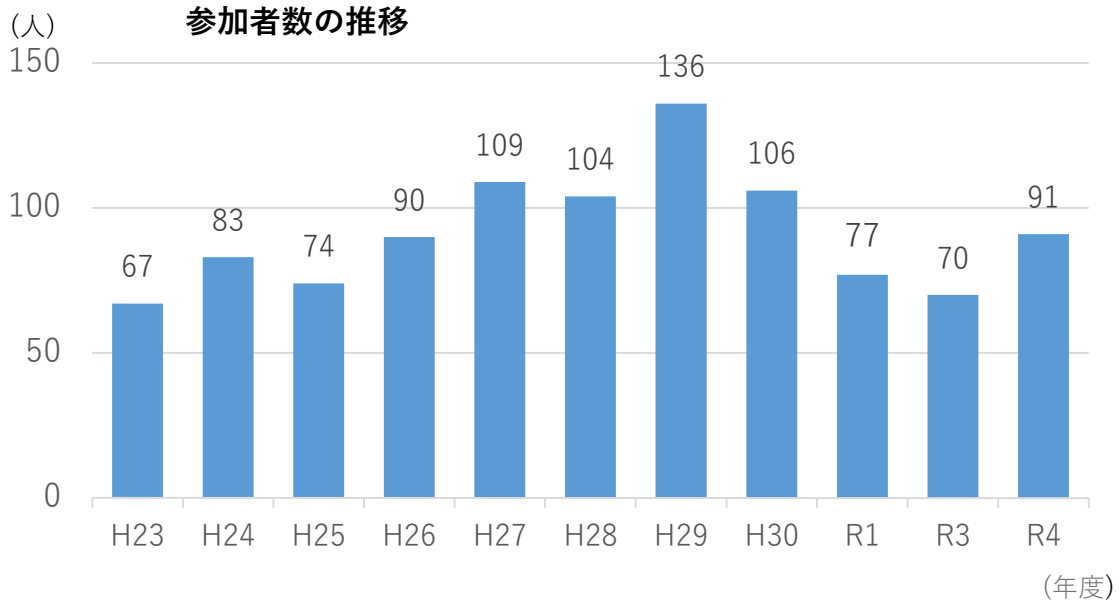
・事例検討会は、R元年度以降、3年ぶりに総合病院を会場とする持ち回り開催を再開した。
・一般医療機関アルコール専門研修は、R3年度オンラインで再開、令和4年度ハイブリッドで開催とした。オンラインを中心に一般医の参加者が増加傾向にある。一方で、オンライン参加の割合が高く、ディスカッションや参加者の交流が図りにくいなどの課題がある。

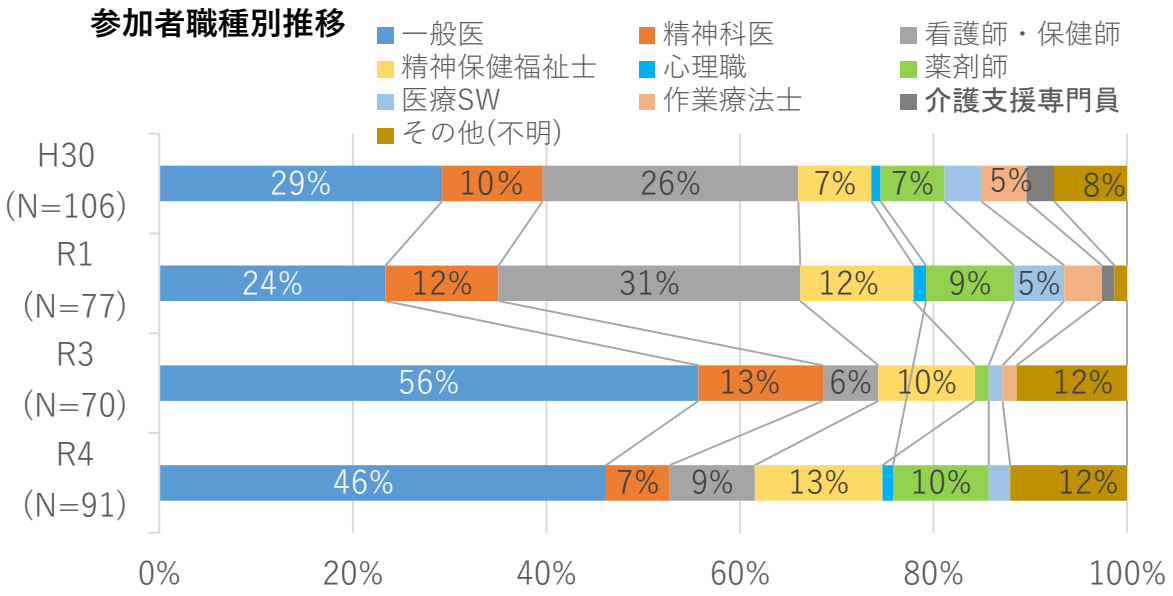
【事例に学び事例でつながるアルコール専門研修（事例検討会）：岡山協立病院にてハイブリッド開催】

日程：令和5年12月15日(金)
事例提供：「D to P with Dで内科からつながった専門医療機関受診を中断するも　総合病院との連携で断酒に至った事例」
事例提供者：岡山協立病院　消化器内科医　板野　靖雄 先生、岡山県精神科医療センター 精神科医　宋　龍平　先生
参加者数：41人

【一般医療機関アルコール専門研修（ハイブリッド）開催予定】

日程：令和6年2月20日(火)　開催予定
講演：「会って話して動く気にする～アルコール治療から始まり日常診療にも活かせる動機づけ面接～」
講師：大石クリニック　精神科、昭和大学横浜市北部病院 禁煙外来　加濃　正人　先生

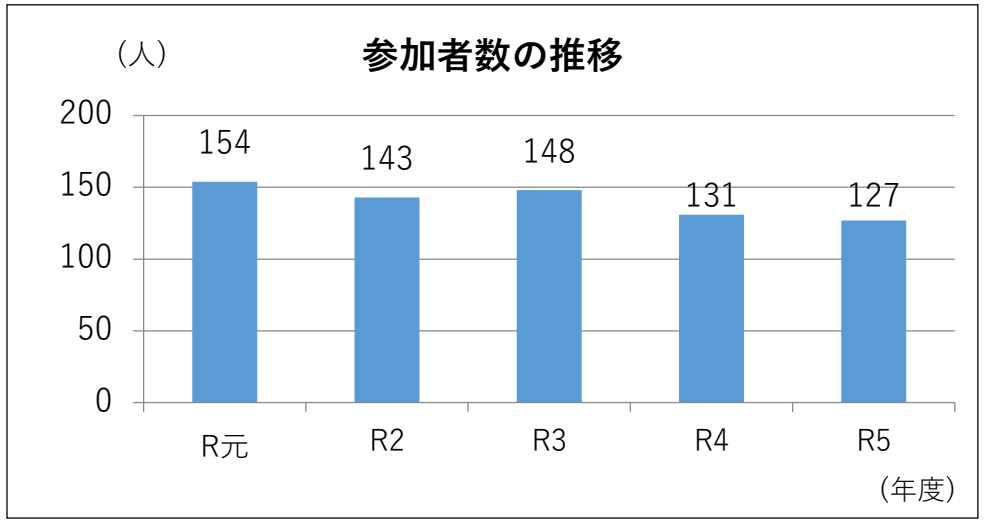


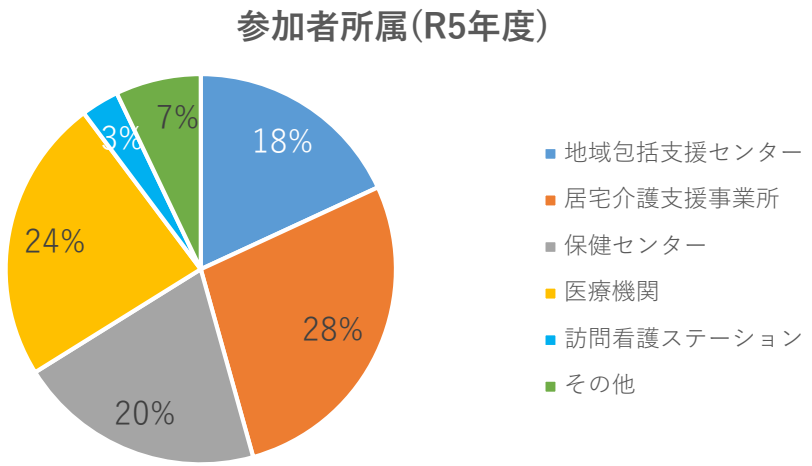


アルコール依存症支援者専門研修

・全体の参加者数は減少傾向にある。R5年度の参加者は高齢者福祉関係者が約4割を占めた。アルコール問題への関心が高い。今年度は、新たに医療機関関係者へも研修を案内し参加が得られた。参加者数は減少傾向にあるが、毎回40人以上の参加申し込みがあり、研修への関心の高さは伺える。
・今年度は、具体的な相談援助技術が身につけられるよう第３回・第４回に実技を取り入れ、内容を充実させた。

日　時・場　所	内　　容　・　講　　師	参加者数
第１回 令和５年７月６日 ピュアリティまきび	講演：アルコール対策の動向と一次予防 講師：ハートランドしぎさん臨床教育センター 精神科医　長　徹二　先生	３５人
第２回 令和５年９月１２日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症の理解と支援 講師：岡山県精神科医療センター 精神科医　宋　龍平　先生 体験発表：岡山県断酒新生会　当事者	３５人
第３回 令和５年１１月９日 ピュアリティまきび	講演：アルコール依存症・乱用への援助 動機付け面接法「やめたい」けど「飲みたい」人たちを援助するには 講師：市ヶ谷みぎわ心のクリニック 精神科医　後藤　恵　先生	３０人
第４回 令和５年１１月２９日 ピュアリティまきび	講演：CRAFTを活用したアルコール依存症家族への理解と支援 講師：藍里病院 精神科医　吉田　精次　先生 体験発表：岡山県断酒新生会　家族会　家族	２７人





薬物依存基礎研修・ギャンブル依存基礎研修

・ギャンブル依存基礎研修では、金銭的な相談内容が多いことからR5年度は新たに金銭問題の内容を盛り込んで実施した。
・薬物依存基礎研修では、実体験に基づいた話がより理解を深めるとの感想から体験発表を盛り込んだ内容で実施している。
参加者の32％は薬物依存症者の相談支援経験を持っており、参加者のニーズに応じた研修企画をしていく。

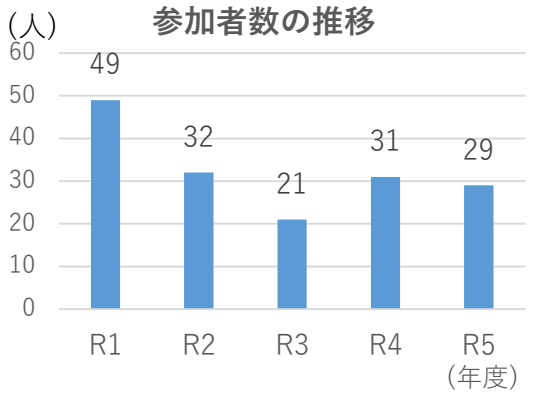
【薬物依存基礎研修】

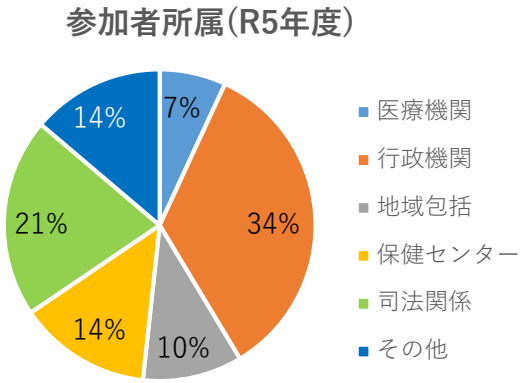
日程：令和5年10月20日（金）

参加者数：29人

会場：ピュアリティまきび

内 容 ・ 講 師
講演：「薬物依存症を取り巻く現状と基礎知識」 講師：岡山県精神科医療センター　精神科医　橋本　望　先生
ダルクの紹介と体験発表 体験発表「薬物依存症回復者の立場から」 講師：特定非営利活動法人岡山ＤＡＲＣ　当事者
岡山家族会ぴあの紹介 体験発表「薬物依存症家族の立場から」 講師：岡山家族会ぴあ　家族





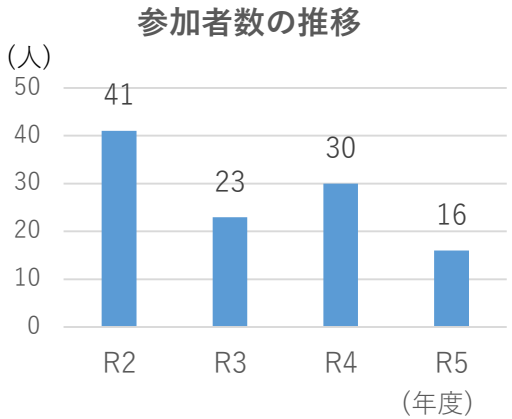
【ギャンブル依存基礎研修】

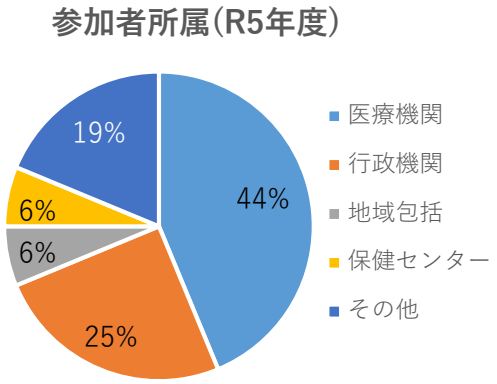
日程：令和5年11月17日（金）

参加者数：16人

会場：ピュアリティまきび

内 容 ・ 講 師
「ギャンブル依存症に向き合う　人としての出会い方」 講師：岡山県精神科医療センター　精神科医　橋本　望　先生
「ギャンブル依存症と借金問題」 講師：岡山パブリック法律事務所　弁護士　林　知子　先生





ゲーム依存関連の研修

・R5年度は、「こころの健康講演会」としてゲーム依存関連の研修を実施。(R4年度は思春期専門研修として実施)
・様々な職種の参加があった。心理職・教育・ソーシャルワーカーが参加者の６割の占めた。

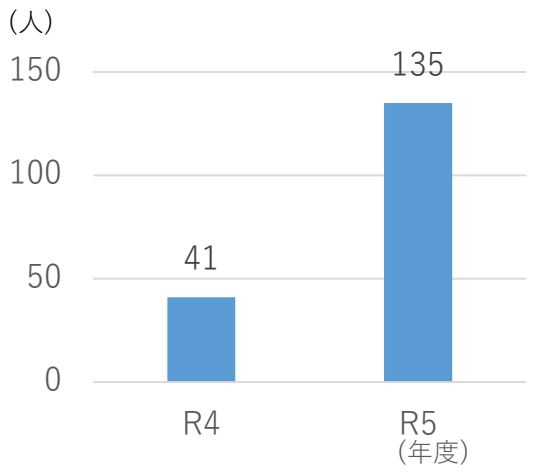
【こころの健康講演会】

日程：令和5年7月31日（金）

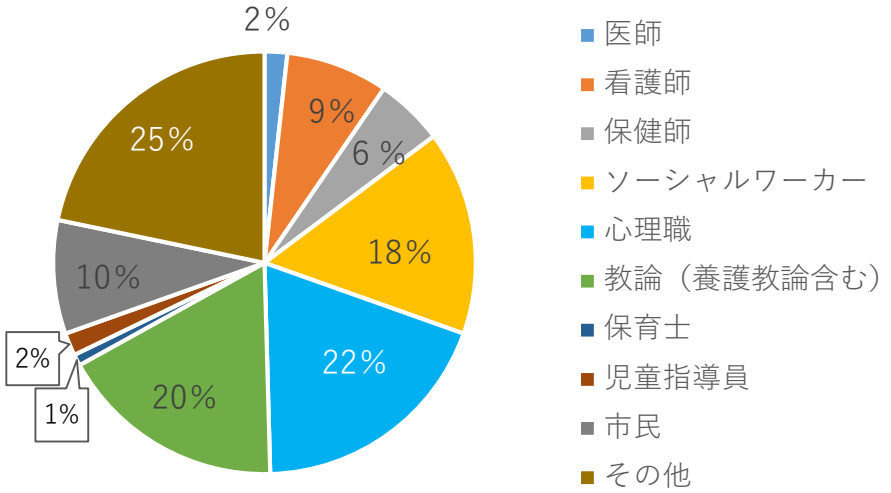
参加者数：135人(会場参加：35人、オンライン参加：97人)

内　容・講　師
講演：「子どもたちはゲームやインターネットの世界で何をしているんだろう？」 講師：医療法人仁誠会 大湫病院 児童精神科 関　正樹　先生（児童精神科医）

参加者数の推移

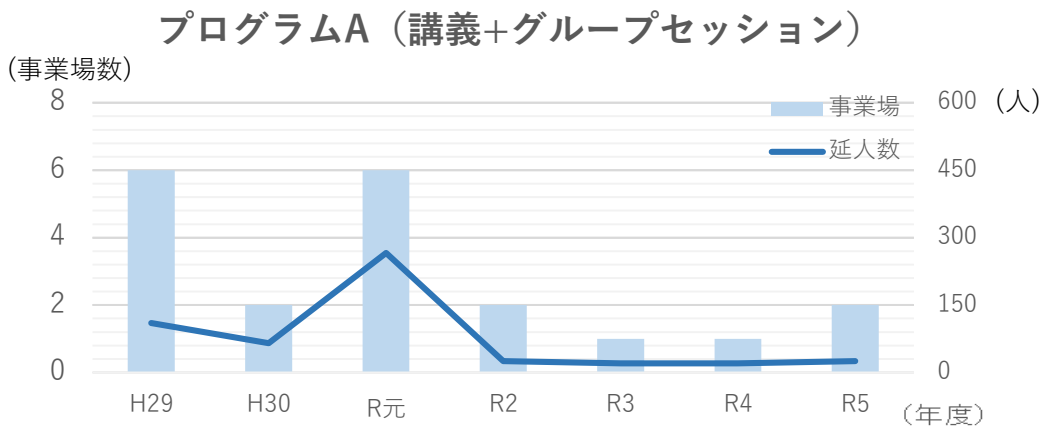


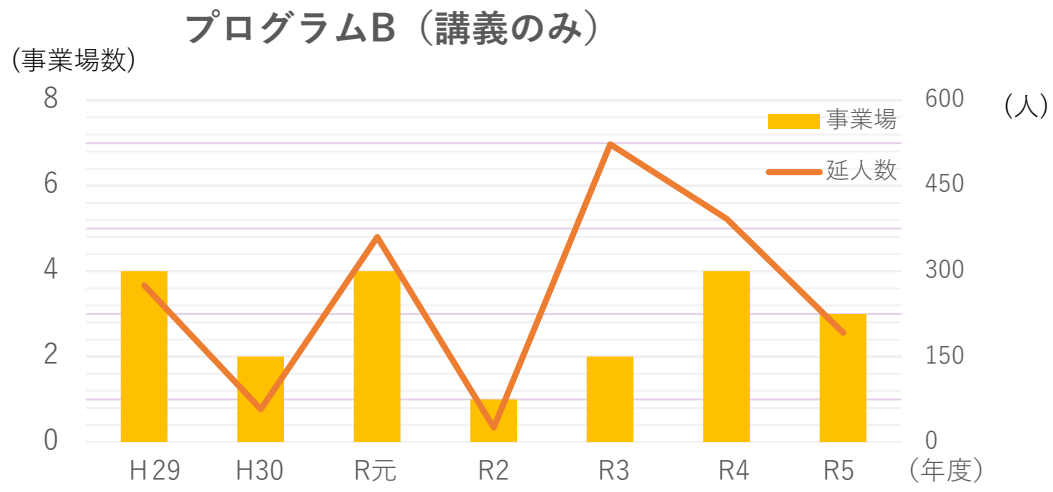
参加者職種(R5年度)



「おいしくお酒を飲むための教室」実績

・R2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴って実施事業場は減少した。しかし、R3年度からプログラムB（講義のみ）はオンライン形式での開催にも対応したことで、一定数の参加者を得ている。
・今後はオンライン形式の開催が増えることが予測されるため、プログラム内容を見直し、次年度は改訂版を使用したい。
・プログラムA（講義+グループセッション）の継続的介入プログラムは令和元年度以降実施できていない。フォローアップの時期を逃さないよう、こちらからの積極的な声かけが必要と思われる。





【プログラムの内容と種類】

事業所から教室実施申込

プログラムA

①初期介入プログラム
対象：事業場が健診データ等より教室対象者とした者
（γGTP値・飲酒習慣等）
方法：講義（20～45分）
＋
グループセッション（30～45分）

プログラムB

対象：①事業場の社員
②企業の管理者・健康管理担当者等
方法：講義（1時間弱）

約3～6か月後

②継続的介入プログラム（1回目）
対象：初期介入プログラム参加者
方法：グループセッション（30～45分）

約6か月～1年後

③継続的介入プログラム（2回目）
対象：初期介入プログラム参加者
方法：グループセッション（30～45分）

岡山市第２次自殺対策計画
第1次自殺対策計画の目標及び評価

重点対策２　世代の特徴に応じた施策の実施

〇中高年層について、職域におけるアルコール依存症予防教室への参加者数が順調に増加するなど、今後も商工会議所や職域団体との連携を通じて、職場におけるメンタルヘルス対策や相談窓口の周知啓発をより一層進めていく必要があります。また、小規模事業所におけるメンタルス対策の状況等について労働局や産業保健総合支援センターと情報共有を図っていく必要があります。

取組	概要	進捗	取組実績（H30-R3）	評価
職域におけるアルコール依存症予防教室の実施	習慣的な多量飲酒が自殺の危険性を高めることから、働き盛り世代に対し適正飲酒に関する健康講座を実施	概ね順調	H30年度 4事業場 計144人参加 R1年度 10事業場 計626人参加 R2年度 3事業場 計51人参加 R3年度 3事業場 計543人参加	・在宅勤務者向けのオンラインでの実施により参加延べ人数の増加につながった。

成果指標

計画の目標として掲げている自殺死亡率は、その時々の経済情勢や雇用環境などの影響も大きく受けることから、各施策とより直接的な関係にあるものを成果指標として設定し、取組の効果を定量的に測ることで、計画を着実に推進していきます。

指標	基準値 （H30～R3年度の平均）	実績 （R4年度）	目標値 （R5～R9年度の平均）
職域における アルコール依存症 予防教室の実施	プログラムA 2.75事業場／年 94人／年 プログラムB 2.25事業場／年 241人／年 フォローアップ 0事業場 0人	プログラムＡ １事業場／年 20人／年 プログラムB 4事業場／年 392人／年 フォローアップ 0事業場 0人／年	プログラムＡ 3事業場／年 110人／年 プログラムB 3事業場／年 290人／年 フォローアップ 1事業場 30人／年

出典：第2次岡山市自殺対策計画を一部改変

普及啓発・情報提供

【アルコール関連問題啓発週間(11月10日～16日)用ポスター】

普及啓発ポスターを作成し、市内事業場(852枚・562か所)等に配布。
岡山市の包括協定による大塚製薬主催の研修会において、岡山アルコール依存症早期支援ネットワークの取り組みを紹介。

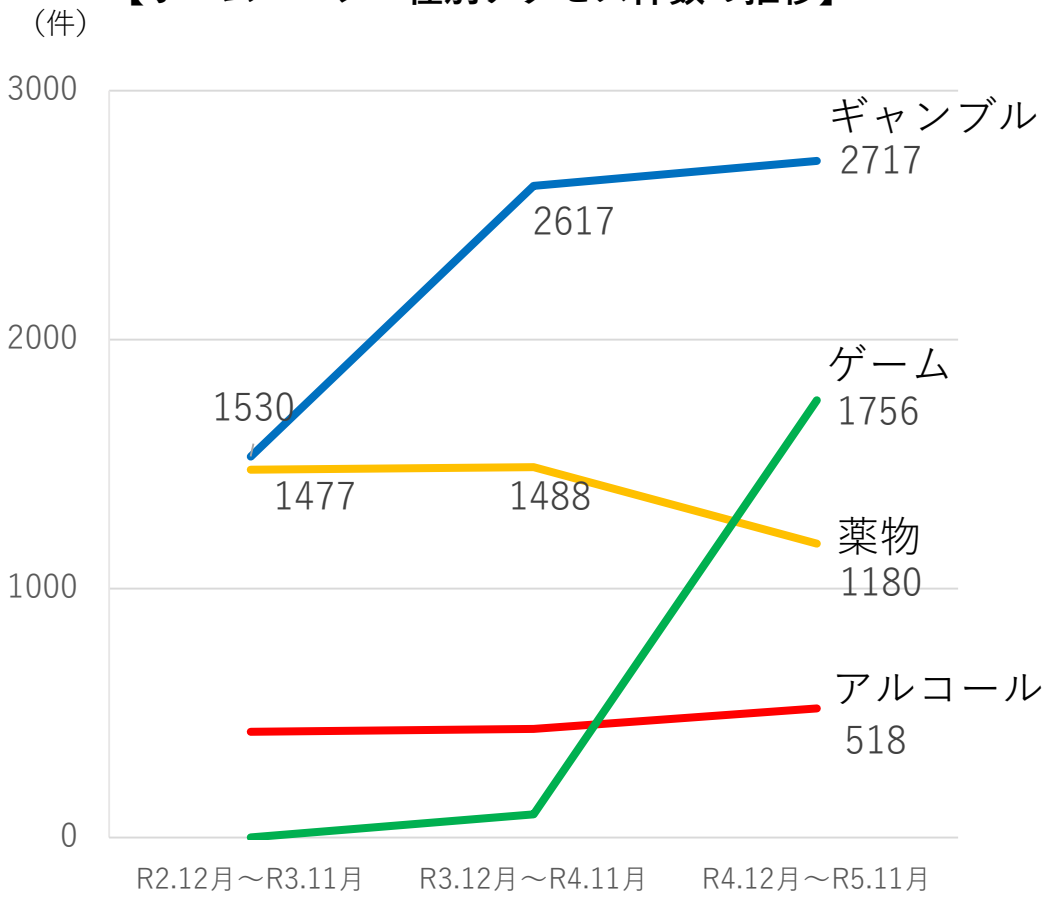
【依存症相談機関リーフレット】

既存のリーフレットを改訂。関係機関へ配布。

ホームページへのアクセス

・直近(R4.12月~R5.11月)の種別アクセス件数が最も多いのはギャンブルで、R4年度にホームページを開設したゲームが次いだ。
・R5年度に薬物のホームページを改訂（本人と家族に向けたメッセージ等を加えた）し、平均滞在時間は伸びたが、アクセス件数は増加していない。引き続き、各種のホームページを定期的に見直していく。

【ホームページ　種別アクセス件数の推移】



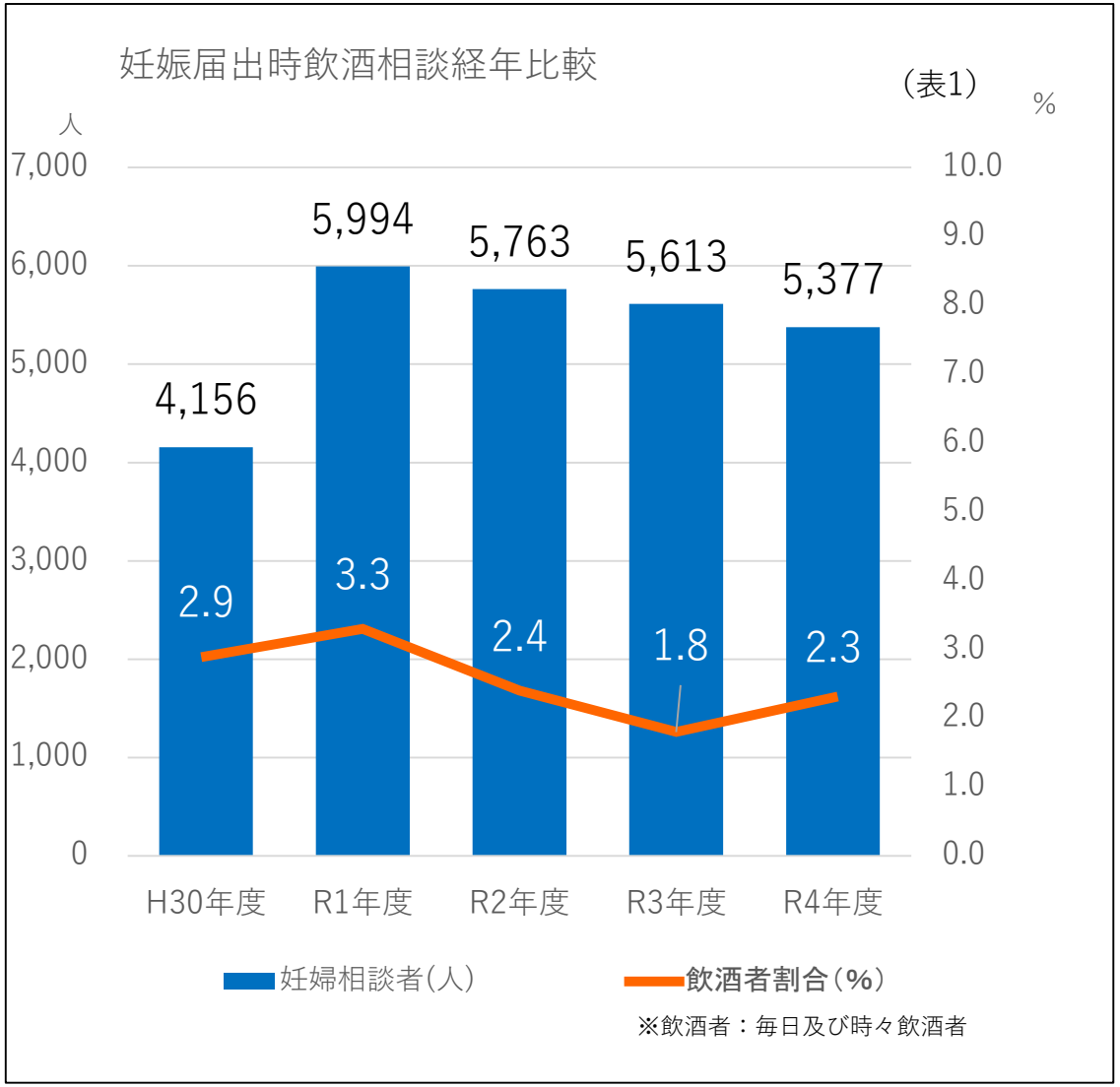
【種別平均滞在時間の推移】

	アルコール	薬　物	ギャンブル	ゲーム（R4.9月開設）
R2.6月～R3.11月	1分56秒	1分32秒	3分32秒	
R3.12月～R4.11月	1分52秒	2分41秒	3分00秒	
R4.12月～R5.6月	1分28秒	3分01秒	3分26秒	1分49秒

岡山市保健所における普及啓発及び情報提供

・新型コロナウイルス5類移行後、地域の活動の場が少しずつ復活し、幅広い世代に対する啓発活動を行った。
・妊娠初期に情報収集し、飲酒している妊婦に対しおかやま産前産後相談ステーション等での面接相談指導を、今後も継続して実施する。

主な事業		取組内容
アルコール健康障害パネル展		アルコール関連問題啓発週間に合わせ、令和5年11月15日に岡山市役所本庁市民ホールにて、断酒会の協力を得て啓発パネルの展示、啓発パンフレット・グッズを配布。併せて保健福祉会館情報コーナーではパンフレットを設置し啓発活動を実施。
妊娠届出時の普及啓発と相談指導		各保健センターに常設のおかやま産前産後相談ステーションにて、助産師等が飲酒習慣のある妊婦に対し妊娠届出時に、啓発パンフレットを配布するとともに、アルコールが体に与える影響について面接相談指導を実施。（表１）
地域における普及啓発	健康市民おかやま21での活動	地域で開催されるイベントで、保健センターが健康市民おかやま21推進委員と協働して啓発活動を実施。高校文化祭にてアルコールパッチテストを200名に実施。
	各地区での健康教育活動	各保健センターにて、一般市民に対してアルコールに関する健康教育を実施。令和5年度（12月末時点）は6か所103人に開催。北保健センター管内の商業施設で断酒会と一緒に啓発活動を実施。
	情報メディア等の活用	保健所が、令和5年11月に、市民向けラジオ（レディオMOMO）を通じて、アルコールの影響や相談先について情報提供を実施。
「こころ健康マップ」による情報提供		依存症関連自助グループについて「アルコール」「薬物」「ギャンブル」の分野別に各会の開催情報等を掲載。保健センターでは随時配布をしており、令和4年度改定時には351機関に配布した。



ギャンブルからの回復支援プログラム（OCAT - G）

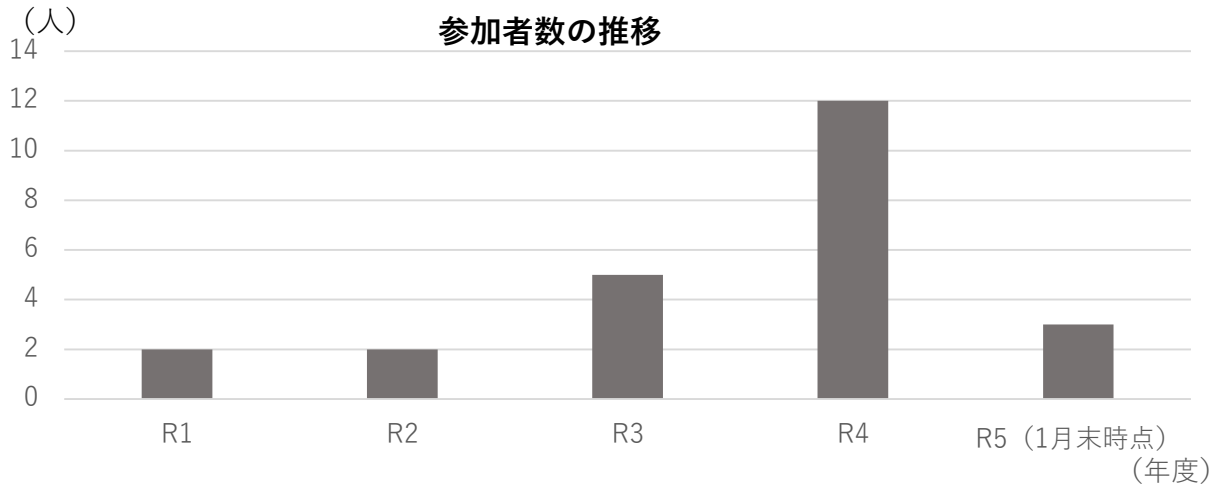
・Ｒ３年度から2クール実施している。R4年度の参加者数は12人に急増したが、R5年は3人とR3年並みに戻っている。就労している対象者が多いため、時間変更など参加者に合わせた対応をしながら実施した。プログラム終了後は参加者が孤立しないように、継続したフォローアップが必要である。
・R5年度は、依存症治療拠点機関が実施するオンラインによるギャンブル治療プログラムに協力機関として参加した。

	1クール	2クール	時　間	内　容
第1回	5月23日（火）	10月24日（火）	13:30～15:30	あなたのギャンブルについて整理してみましょう
第2回	6月27日（火）	11月28日（火）		引き金から再開にいたる道筋について
第3回	7月25日（火）	12月26日（火）		再発を防ぐために
第4回	8月22日（火）	1月23日（火）		私のみちしるべ
第5回	9月26日（火）	2月27日（火）		回復への道のり

プログラム参加経路：ホームページが大半

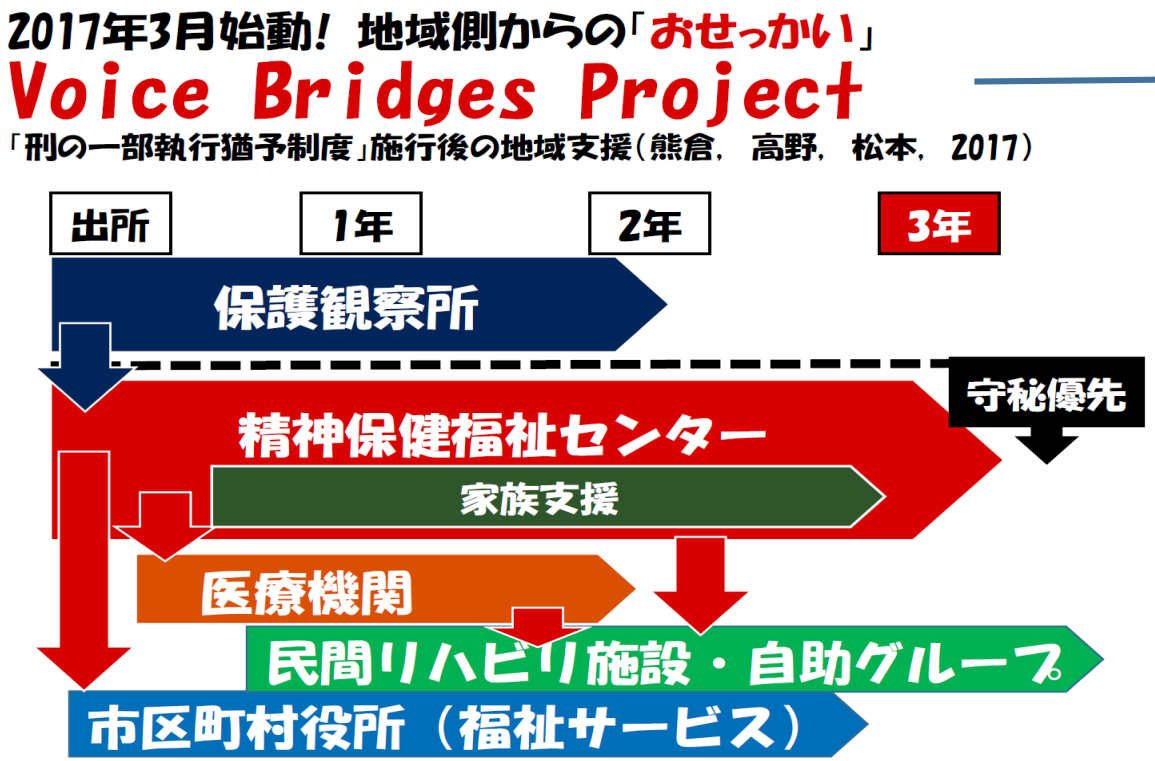
【参加者の声】

・改めて、ギャンブルと向き合うことができた。
・プログラムを受けたことで状況が整理できた。



司法機関との連携(VBP・その他)

・VBP（Voice Bridges Project）申込者は、R4年、R5年に1名ずつ。R4年度から保護観察所主催の引き受け人懇談会に参加し、当センターの薬物依存症者支援に関する情報提供をした。
・R4年度の「薬物依存からの回復のための岡山県地域支援連絡協議会」にて岡山刑務所から、釈放前受刑者への支援における機関連携相談があり、R5年度は岡山刑務所内で実施する集団プログラムに参加し、地域の相談先について情報提供した。
・薬物使用者に、当センターが仕事や金銭面など生活全般の相談ができることの周知が図られていないため、情報提供の機会を拡大したい。



※令和５年8月現在、24か所の精神保健福祉センターがVBP参加

保護観察対象となった薬物使用者に対して3年間追跡調査を行う中で、薬物使用の確認や生活の困りごとを聞き取り、切れ目ない支援を目指す。

岡山刑務所での
薬物依存に関する集団プログラム

参加者：釈放前受刑者
教育専門官
岡山DARC
岡山市こころの健康センター